

【授業改善推進プラン 1年 国語】

児童の状況	【全体】 ○学習に対して意欲的である児童と支援が必要な児童が混在している。集中して取り組める児童は、次第に増えてきている。個人差があり、個別に配慮を必要とする児童がいる。 【読む】 【書く】 ○平仮名、片仮名について、単純な読み書きは習得できている児童が多いが、文章として読み取ることには課題がみられる児童もいる。 ○拗音、促音の読み書きに課題のある児童がいる。 ○書く活動について、思ったことを文章に表すことができている児童が多いが、文字の表記や句読点の扱いに課題のある児童や書くことが難しい児童がいる。 ○適切な助詞「は・を・へ」の活用にまだ課題が見られる。
指導についての課題	【全体】 ○デジタル教科書や電子黒板の授業の中での効果的な活用について、児童の実態に応じて適切に取り入れるための教材研究が必要である。 ○児童の理解に大きな個人差があり、個に応じた支援が必要である。 ○言語の理解や書くことに対して個別の支援が必要な児童がいるため、具体的な支援の工夫をしていくことが必要である。
授業改善にむけての具体的方策	【読む】 【書く】 【聞く・話す】 ○読む、書く活動を行う際にデジタル教科書や電子黒板を効果的に活用し、活動内容を確実に把握できるように実態に合わせた指導を工夫する。 ○他教科で読む、書く活動をする際にも丁寧な指導を心がける。 ○平仮名や片仮名などを繰り返し練習する時間を設ける。 ○M I Mを活用し、拗音や促音などを分かりやすく指導する。 ○発表交流の機会を設け、相手を意識した表現を積極的に行うことで、伝える力の向上を図る。
読み解く力の育成	○言葉に興味をもつような指導の工夫を図る。 ○毎日の音読課題の宿題への取組などから、読むこと、読み解いていくことに慣れるようにする。 ○他児の作文や、感想や記録のカードなど、関心をもって読もうとする機会を多く設ける。 ○読書の時間を確保し、自由読書や、読み聞かせの機会を多く設ける。 ○読書カードを活用して、自分なりの読みを重ねていく活動を取り入れる。

【授業改善推進プラン 1年 算数】

児童の状況	○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、基礎的な理解が難しい児童が10名程度いる。 ○1から10までの数についての理解はできている。 ○10までの数のたし算、ひき算の計算についてはほぼ習得できている。理解が不十分な児童がおり、ブロック等の操作を行ったり、図に表すことにより答えを求められるよう指導している。 ○文章からの立式に課題が見られる。 ○与えられた式への問題作りが苦手な児童が多い。
指導についての課題	○学習活動の際において大型ブロックの使用や具体物による問題提起、掲示物などを工夫し、児童に視覚的にも理解を促すことが更に必要である。 ○ICT教材（デジタル教科書）を更に効果的に活用し、理解を深め魅力ある授業を行うことが必要である。 ○たし算やひき算の学習で個別の支援が必要な児童がいるため、具体的な支援の工夫をしていくことが必要である。
授業改善にむけての具体的方策	○実物やブロックなど具体的な物を使った活動を多く取り入れる。 ○問題文の内容を的確に理解させるために、赤青鉛筆で印をつけさせたり、実物やブロックなどで提示したり、子どもに扱わせたり、ICT機器を活用したりするなどの工夫を更にする。 ○式を立てさせる指導において、問題文の読解・文中の数の確認・立式の際の問題文と式の対応について、順を追って丁寧に行う。 ○習熟度別指導を活用しての少人数での指導や学力向上講師による個別対応などを計画的に行う。 ○子どもが解決法を説明する機会を設定し、自分の意見と比べたり、良さを伝えあったりしながら、考えを練り上げる習慣をつける。また、価値のある発言や質問を取り上げ、よい点を具体的に示す。
読み解く力の育成	○文章題の内容を確実に理解させるために、「数字や単位」「聞かれていること」に線を引く活動を行う。また、図や絵・ブロックなどを利用し、文章題理解の一助とする。 ○解き方を発表する際、子どもの解き方を書画カメラなどで写したり、画用紙にかかせたりして、どのように解決したのかを話し合う時間を設定し、図や表・式などから解き方を読み取る力を伸ばす。 ○定義となる語彙が新たに登場した際、ノートに記載させ全員で読ませたり、当てはまる具体例を考えさせたりすることにより、新しい語彙を確実に定着させる。

【授業改善推進プラン 1年 音楽】

児童の状況	○歌唱の学習に意欲的に取り組める児童が多い。 ○打楽器の演奏を楽しみながら取り組んでいる。 ○友だちの発表や演奏に関心を向けることには課題がある。 ○リズム打ちなど、体を動かしながら取り組む活動に楽しんで取り組むことができる。 ○鍵盤楽器の指使いやタンギングに課題が見られる。 ○拍の流れに合わせて歩いたり、体をゆらしたりするなど、リズムを意識して表現を工夫することは概ねできている。
指導についての課題	○友達が演奏しているときの聴く姿勢など、規律の徹底が課題である。 ○拍やリズムをとりきれない児童に対する個別指導の工夫が必要である。 ○音高を意識して歌唱する経験を積ませることが今後必要になってくる課題である。
授業改善にむけての具体的方策	○階名唱を通して、相対的な音程感覚を身に付けさせる。 ○鍵盤に音高が書かれたシールを貼るなど視覚的工夫を施す。 ○基本のリズムを表現や鑑賞の活動を通して、多面的な方向から習得させるとともに、授業の中で実際に活用できる場面を設定する。

【授業改善推進プラン 1年 図工】

児童の状況	○図工を楽しみにしており、多くの児童が集中して取り組むことができる。 ○友達作品の良いところを鑑賞することを楽しみにしていたり、自分の作品に積極的に取り入れようとしたりすることができる児童が多い。 ○工夫して熱心に取り組む児童と、短時間で作品作りを終えてしまう児童がいる。 ○道具や教具の技能にまだ個々の差がみられ、個別で支援していく必要がある。（はさみの扱い、のりのつけ方など）
指導についての課題	○どんな工夫ができるのか、導入で想像を膨らませてから、作品作りに入る必要要件がある。 ○作業の説明についての個々の理解の差が大きく、指導の工夫が必要である。 ○道具の適切な使い方の内容を指導する必要がある。 ○発達段階に合わせて個に応じた支援の仕方を工夫する必要がある。

授業改善に むけての 具体的方策	○具体物の提示や実物投影機を活用し、作品を作る工程を視覚的に提示するなど、児童に分かりやすく課題を説明する。 ○作成途中でお互いに作品を見合う時間を設け、友達の作品を自分の作品と比べたり、友達の作品の良さを自分の作品に生かしたりすることができるようにする。 ○教科書を使って、道具の使い方等の内容について丁寧に指導する。
------------------------	---

【授業改善推進プラン 1年 生活】

児童の状況	○身の回りのことに興味をもち、積極的に人とのかかわりながら、活動に意欲的に取り組むことがほぼできている。活動が難しい児童もいる。 ○季節の変化に気づき、季節の良さを生かした学習に意欲的に取り組むことが、できる児童が多い。 ○自ら課題を見付けたり、活動を工夫したり、気付いたことを表現したり、できる児童が多い。 ○自分の活動を絵や文でカードに表現する力に個人差がある。
指導について の課題	○学校の周りや屋上庭園、地域の特色を生かした単元開発が必要である。 ○児童の主体的な活動を十分に引き出す指導の工夫や単元構成の工夫が必要である。 ○個に応じた指導についての工夫をしていく必要がある。
授業改善に むけての 具体的方策	○季節に応じて、屋上庭園や学校回りの自然を活用する具体的な計画を立てる。 ○自然豊かな地域の児童との交流を行う。 ○単元の進め方について学年で共通に取り組めるような活動カードの工夫をする。 ○校外学習(遠足)での活動を生活の授業と関連付けるようにする。(板橋ふれあい動物園分園、徳丸が原公園) ○オープンスペースを活用して、児童が活動を選択できるような単元構成を行う。 ○学年での発表会や探究学習発表会など、表現の機会を充実させる。

【授業改善推進プラン 1年 体育】

児童の状況	○固定施設を使った運動遊び、走ることなどは、楽しみながら意欲的に取り組むことができる児童が多い。 ○整列等の基本的な集団行動ができるようになった児童が多いが、自分からできない児童もあり、課題である。 ○安全を意識せずに、勝手に活動する児童が数名いる。 ○マット遊びやサーキットで、体の動きがぎこちない児童がみられる。 ○水泳の学習において、水に顔を付けることや、体全体で潜ることに抵抗がある児童もいる。
指導についての課題	○個人差に対応できる活動の時間と場所を確保する必要がある。 ○人数が多いため、工夫して運動量を確保する必要がある。 ○苦手意識をもった児童でも楽しんで取り組める運動やゲームについて指導を工夫する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○基本の運動やゲーム運動を通して、安全性への理解を十分できるよう説明し、みんなと仲良く楽しく活動できるように指導する。 ○ゲーム領域の内容では、事前に映像等でイメージをもたせることで、説明時間の短縮を図る。 ○皆で協力して準備ができるよう、準備の手順をあらかじめ考えておく。 ○準備や説明を端的に行い、運動の時間を確保する。 ○運動が苦手な児童に対して、声掛けを行い、運動の補助を工夫する。 ○互いに助け合ったり、教え合ったりする風土をつくることができるように、日常の指導から取り組んでいく。

【授業改善推進プラン 1年 特別の教科 道徳】

児童の状況	○発言やカードによって自分や登場人物の気持ちを伝えることができる。 ○善悪の判断、公正公平について考えるなど、道徳的な思考を深める活動について意欲的な取組ができる。 ○道徳で取り上げたことを、自身の行動に反映させようと意識している児童が多いが、時と場合によって、決まりを守れなかったり、友達が傷つく言葉を言ってしまう児童もいる。
指導についての課題	○考えさせるべきことの発問の工夫をする。 (場面絵やデジタルコンテンツの活用法、主の発問をどうするか工夫) ○児童に主体的に考えさせるための手立てを工夫する。 ○他の児童の考えに対し耳を傾け、自身との違いに気付かせる。 ○日常的に道徳について触れ、繰り返し振り返り、自分の生活との繋がりを意識することができるようにする。

授業改善に むけての 具体的方策	○自分事として考えることができる導入をする。 ○登場人物の気持ちに寄り添って考えることのできる発問をする。 ○他の児童との交流時間を十分に確保する。 ○ペアやトリオ、グループなど話し合いの形態を工夫し、お互いの考えを交流することができるようにする。 ○自分の生活に生かすことができるよう、日常の指導との繋がりを意識するとともに、教室掲示等を工夫して児童が道徳の学びを思い出せるよう環境整備をする。
読み解く力の 育成	○場面から道徳的価値を捉える。 ○教材文の設定や、登場人物の心の動きを図で表す等の板書の工夫をし、そこから教材文の内容を振り返ったり、内容を読み解いたりする活動を取り入れる。 ○物語の場面や背景から、登場人物の心情や気持ちの揺れを考える。